

会 議 録

□全部記録 ■要点記録

1 会議名	令和3年度第2回姫路市立総合教育センター運営協議会
2 開催日時	令和 4年 2月18日(金曜日) 14時30分～16時30分
3 開催場所	総合教育センター 3階 講義室
4 出席者又は欠席者名	(出席者) 加治佐委員、井上委員、中島委員、溝口委員、白井委員、 本多委員、永浦委員、平山委員、三谷委員、森委員 (事務局) 総合教育センター 谷田所長、八木副所長 教育研修課 西川課長、北村係長、湊係長 育成支援課 藤戸課長、福島係長、南原係長
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可、傍聴人なし
6 議題又は案件及び結論等	1 令和3年度事業の取組状況について 2 令和4年度事業(案)について
7 会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

開会

総合教育センター所長挨拶

定足数報告

「令和3年度事業の取組状況について」説明

委員：不登校が非常に増加しているということで、今年度から、「すまいる」という出張型の取組をされたとのこと報告について、具体的にどのような取組をされているのですか。

事務局：出張型適応指導教室ということで、姫路市内に2か所、公的な施設を借りて、そちらに近いお子さんが、センターまで来なくても、そこでスタッフと一緒に活動をするものになっております。まだ始まったばかりではありますが、今後も、周知をしながら、広く使っていただけるような活動になればと考えております。

会長：ICT支援員が20人に増員だということですが、これは、どういう方々ですか。

事務局：業務委託をして、ICTの支援員として活動していただいておりますが、増員した人たちには、8月に研修をした上で、9月から実際に現場に行ってもらっています。

会長：GIGAスクールサポーターとはまた別ですか。

事務局：GIGAスクールサポーターは、保護者の問合せに対応したり、保護者向けにICTの質問・回答をホームページに掲載したりするなどの活動をしています。

会長：GIGAスクールサポーターの方はここにおられるのですか。

事務局：はい。このセンターで電話対応をしています。

会長：保護者対応もやっておられるのですね。結構丁寧ですね。かなりこの分野は進んできているという感じですね。

委員：コロナのことで、学校としては、子供のワクチン接種ということに関してどういうふうにご子供たちに言われているのか、その辺をお伺いしたいと思います。

会長：ワクチン接種について、これは、生徒ではなくて児童のワクチン接種についてですね、答えられますか。

事務局：総合教育センターの管轄外ではありますが、教育委員会としましては、やはり、国、県、市、いろいろ調整しながら、指示があれば進めていくという形が原則になります。学校現場も、当然校長先生、先生方、いろいろ思いはあったとしても、しろとか、するとかは、言いにくい面があろうかと思えます。本市としましては、国や県の動向も見据えながら、やはり一番大事なのは、子供たちの命、安全だという思いは一緒だと思いますので、正確な情報を入手して、教育委員会と学校園、しっかりと連携しながら対応していきたいという考えでおります。

会長：ICTを活用した授業が求められているわけですが、7ページ、評価指標の目標値が、小学校90%、中学校が80%ぐらい。今年度は12月末現在でもう達成されているわけですが、もう、高止まりしているわけですね。これからどうされますか。ここを超えていくのは、なかなか難し

いのじゃないかと思いますが。何か、次の対応がありますか。

事務局：授業の中で活用しやすい教科と活用しにくい教科があると思います。ただ、今年度は、端末に慣れる、日常使いということを中心に取り組みましたが、来年度は、授業使いをメインに取り組もうと考えています。そうすると、教職員も支援を行う、端末を使った支援を行っていくということが、当然増えていくと考えております。今現在、いろんな学校で取り組まれている好事例の情報を流して、それを参考に使ってもらえるように、というような手だてをとっているところですので、そういうことを積み重ねながら、このパーセンテージを上げていけたらと考えております。

会長：そうですね、ひよっとするとおっしゃるように底上げではなくて、伸びるところ、伸びる先生を伸ばして行って学校の雰囲気を変えていく方が結局いいかもしれないですね。できない先生に対していろいろ手だてを、ということも大事かもしれませんが、それ以上に、やりたいというか、できることを伸ばしてそれが全体を引き上げるような方がいいのかもしれないですね。

委員：資料の12ページで、不登校の相談が昨年と比較して1.97倍、しつけ子育ての相談が1.4倍になっていますが、これが、例年のような相談がそのまま増えているのか、それともコロナに関連したような、近年の課題のようなものがすごく増えているのかを、わかる範囲で結構ですので、お知らせいただけたらと思います。それによってどういう対応をしていくかというヒントになるかなと思うので、お聞かせください。

事務局：特にコロナが原因でというような相談が増えているとは、聞いておりません。例年とそう変わらない内容で、ただ件数が増えてきている。それは、ひよっとすると間接的に影響しているのかもしれませんが、事象としてコロナだからどうのというようなことは聞いておりません。

委員：家庭の様子もやっぱりコロナの影響で変わってきたというのも、ニュースなどでも聞いているので、質問させていただきました。ただ相談になかなか行きづらい中で、こういう相談が市で受けられるということがすごくプラスになっているのだろうと思います。

委員：不登校の件数が非常に増加しておりますが、やはり何か無気力とか不安とかというケース、内容が全国的にも多いと聞いております。なかなか家庭も親も諦めモードで、あまり押し出しもしないというようなことで、先生方も対応にかなり困っているというような情報を得ておりました、そのあたりで、これだけ、2倍近く増えていることで、センターの相談にどのような影響があるのでしょうかということをお聞きしたいと思っています。今後ますます増えてくる可能性もありますので、今後の不登校相談に関する対応策といったようなことをもし考えておられましたら何か仰っていただければと思います。

事務局：不登校に関しての相談、原則というか大枠は変えるつもりはないのですが、流れとしまして、学校以外の居場所を積極的に認めていこうということにもなっております。ですから、学校復帰ということ、私たちとしては目指してはいくのだけれども、必ず学校でなくても、というような、ちょっと柔軟な対応で、相談員にも、保護者なりご本人にも、伝えていかなければいけないと思っていますので、そういったことをしっかりと踏まえて、子供たちにも柔軟な対応で、相談に当たっていきたいということを考えております。

会長：国も、次の教育振興基本計画の諮問が出て、その中、具体的には書いてないのですけどね、

不登校がここまで増えてきて、いろんな理由があると思いますけど、場合によっては積極的に不登校を求める保護者も、子供もいるような状況も増えてきている。今は適応指導教室とかフリースクールとか、一定の条件が整えば出席扱いにしていますけど、そこがもっと広がるのではないかと、そういう気がします。具体的にはまだ出ていないですけど、多分、文科省も相当のことを考えているのではないかと、そういうことが諮問文からうかがえますので、またセンターも対応がいるかもしれないですね。

この、令和3年度事業の進捗というか、ほぼもうまとめですけど、大変結構ではないでしょうか。そういう印象を受けますね。ご苦労さまでした。

「令和4年度事業(案)について」説明

委員：私、姫路市少年補導委員ですが、特にここ数年来、子供の行動が非常に変化してきました。

今まではもっぱら街頭補導というものを行って、そこで、声かけという形で、子供たちにアドバイスしながら健全化に努めていたわけです。それが、目に見える問題行動から非常に見えにくい行動に変化してきている。それはひとつにはやはり世の中の変化で、教育現場が去年からタブレットを導入して、非常に教育の内容が変わってきましたが、その前から子供たちはスマホを使っていて、連絡の仕方が変わってきていた。公園でたむろして話していたのが、スマホで連絡が取れる。それがいろいろな面でエスカレートして、我々からするとやってはいけない方向に進んでいく。それを大人たちがいろいろビジネスに使って子供たちをトラブルに巻き込んでいる。これがここ2、3年非常に増えてきたのが現状ですね。

それで、補導委員会も、この、相談件数が非常に増加していることをどう支援していくかということで、いろいろな形で研修を積んでいるわけです。ただ、街頭補導がもちろん基本だと思います。街頭補導をして量販店の方であるとか、地域の方とか、そういう方にいろいろ接して、情報をいただく。その中で健全育成に役立つこと、子供たちのことを考えていかななくてはならないというのは基本だと思っています。しかし、不登校や、最近では若い中学生なんか家庭の事情で身内の人の面倒を見なきゃいけないヤングケアラーというもの、そして引きこもり、やはりコロナの影響もあると思いますけどね、また、ネットのトラブルが非常におかしくなっている。課金であるとか、そういうふうにとんどんエスカレートして、我々相談を受けようがない、警察関係機関の方の対応になってくることも多いのですが。

関係機関とも話していると、やはり未然防止が非常に大事だとおっしゃいます。そこで、特に高校中学小学、こういう生徒児童を対象にして健全育成を考えると、いい面を見ていかななくてはならないということで、補導委員会として、子供たちの善行表彰をしています。児童生徒が、地域に対して、ボランティア活動であるとか、人命救助であるとか、様々なことをした、顕著な功績のある人を表彰させてもらっています。残念ながらここ2年間、広い会場を使っている表彰はできていませんが、今年は約20件の報告をいただきました。これを見るにつけ、補導委員をやっているひとつのはげみになっているわけです。だから、子供たちはいい方向にやっぱり成長しているというふうにとらえています。善行を見ると、心から感心する子供たちが非常に多いようです。タブレットの利用も、非常にいいことだと思います。ただこれを変な方向に使わないように見守っていただきたいと思っているわけです。

委員：姫路市の教育振興基本計画に改めて目を通すと、その中に、目指す人間像として、「ふるさとを愛し、社会の持続的な発展のために連携し、協働できる人間」というのがありまして、そのあたり、教育の中で、生徒児童にも、早いうちから触れてもらうようなメニューをぜひ盛り込んでいただきたいなと感じました。

地域で育まれている人材が流出していて、地元の中小企業からすると、なかなか人材が確保しづらいというのはもうずっと続いている状況です。早い段階から地域のことをよく知っていないと、なかなかそういうふうにならないだろうと思いますので、そのあたり、教育に携わっていただいている先生方にも、幾らか情報提供できるような場があるメニューもいいのかないと思いました。それから、社会の持続的な発展のところですが、姫路商工会議所が今年の夏に100周年を迎え、その関係で、SDGsのエキスポみたいなことをやろうと、今企画をしています。こちらは、SDGsについて身近なものにしていくとかみんな取り組んでいきたいと思います。このことを、広く発信していきたいという趣旨もあります。

こういった取組を進めていますので、子供たちにもぜひ触れてもらえるような、機会にしていけたらと感じましたので、研修のメニュー等にも織り込んでいただけるようなシーンがありましたら、協力をお願いする形になるかと思いますがよろしく願いいたします。

事務局：いろんな学校で、自分の学校の特色をうまく使った教育活動をされていると思います。そのあたり、総合的な学習の時間とかを使って、広められるようにということ、教育委員会から発信していきたいと思います。

SDGsにつきましては、今学校でいろいろ取組をされているところですが、来年度、SDGsを題材にした研修を考えております。具体的にどうするかまだ細かく決めていないのですが、今、ご協力をいただけるようなお話を聞いたので、そのあたりも踏まえて研修の計画を立てていけたらというふうに思います。ありがとうございます。

事務局：教師が、自分の勤めている学校園の校区を知らない。校区のことをしっかりと知って、その良さを感じて、子供たちに伝える必要があるということで、初任者研修で、連合PTAの方4人に来ていただき、親の思いとか、こういう子供に育てほしいということ、話をいただいています。その中でやはり校区を知ってもらいたいという話がよく出ました。そういうことで、校区を知って、社会科、生活科、そして総合学習なんかで、調べ学習をしたりしながら、自分が生まれ育っている校区を知り、好きになっていく。大事にしていく。そういう子供を育てていくために、学校、教育委員会、連合PTA等々、連携しながら、いろいろなことを進めているところでございます。

委員：高岡病院の児童病棟の管理者をしております。けいふう診療クリニックでも児童外来の責任者をしております。書写養護学校の先生方には、院内学級で本当にお世話になっています。教育の力は、医療だけではできないことをやっただいていて日々、本当に心強く感じています。また引き続き来年度も総合教育センターやこども家庭センターとも協力しながら、医療としても、子供たちの支援をしていけたらいいなと思っています。

先ほど柔軟な対応という言葉が出ましたが、私もそのように感じています。今現在、不登校が増えていますが、学校に行けない状態でも、次の段階に進んだ時、先への展望が持ていたら、また行けるようになる子もいます。なので、今は、柔軟な対応の中でどこかに居場所を作っただいて、そしてその先への展望を持ちやすくなるような支援を皆でやっていけた

らいいと日々、思っています。

会 長:どうもありがとうございました。またご協力ご支援、どうぞよろしくお願いいたします。

委 員:幼稚園から来ております。スペシャリストの派遣事業で、講師の先生に来ていただいて、お話を聞いたり保育を見ていただいたりする機会を毎年持たせていただいております。違う視点での話を聞くことができ、保育に自信が持てる場になったり、新しい視点で保育を見ることができたりして、とてもありがたい機会になっております。また幼稚園で自主研修会を行う中でも、教育助成金をいただいて、研究を進めることもできています。本当に助けていただいたりとか、教えていただいたりする機会が多く、特にありがたいと思っております。今後もどうぞよろしくお願いいたします。園務支援システムも進んできておりまして、来年度からICTを使いながら、労働環境も良くなっていくと楽しみにしているところです。

育成支援の方でもたくさん支援の先生に来ていただいたりして、助かっています。まだまだ助けていただきたい幼稚園がありますが、プール介助員も、小さい子供の命を守るという点でも、本当にありがたいと思います。これからも支援をしていただければありがたいと感じています。

幼稚園の子でもYouTubeを見る子がとても増えてきています。親が言っていることだなと思いますが、子供同士で、これができなかつたら、YouTubeを今日は見せないよと、そういうふうなことを言っています。YouTubeを見られないことが罰になるような時代になってきているようです。こういうことをするのがもう幼児期まで来ているのだなと思って、正しい使い方や、保護者への啓発も、これから大事になってくるなあと感じているところです。ネットトラブルというのは、幼児期から、始まることになると思うので、またその辺りも、私たちが勉強していきたいと思っています。またいろいろご指導をよろしくお願いいたします。

委 員:姫路市小学校長会です。3点お話をさせていただきます。

まず1点目は、教職員の研修についてです。コロナ禍ということで、オンライン研修や動画配信があったために、現場ではたくさんの職員が研修する機会が増えたように思います。横の繋がりを構築するための、対面での研修を残しつつも、オンライン研修を今後も続けていただきたいと思います。姫路市は本当に広い地域です。1か所に集まって研修をする場合、中心街から離れている学校では、子供たちを残して、出張に行かなくてははいけません。子供たちと向き合う時間を確保するためにも、オンライン研修は、非常に職員にとってもありがたいという声をたくさん聞いております。

2点目は、1人1台の学習者用端末を用いた取組についてです。各学校で、日常使いを積極的に取り入れています。1年生であっても、しっかりと使えるようになってきております。また、授業の中で、どのような単元でどのように使うのが効果的であるかという視点からも、各学校で取組を進めているところです。比率の違いはあるとは思いますが、日常使いと授業使い両面で、各学校取り組んでおります。これは教育研修課のリーダーシップのもと、全市同一歩調で進められているという点が一番だと思います。次年度以降も、姫路市の子供たちの教育のために、頑張っていきたいと思っております。

3点目は、子供の困り感、保護者や教職員の悩みについて、いつも育成支援課の先生方が丁寧に対応してくださり、ありがとうございます。子供たちの事例を見ると、生徒指導と

特別支援教育の2つの視点が、複合的に関わっている様子も伺えます。その際、課の中で、横の連携がしっかりととられているっていうことを、現場の校長として感じ取ることができます。そのことは非常にありがたいですし、ひいては、子供や保護者の、教職員の、問題解決に、直結することだと思っております。今後さらに、子供たちのいろいろな相談事例が出てくると思います。件数が大きくなるのが、悪いことではなく、今まで悩みとして打ち明けられなかった人が、センターに行けば悩みを聞いてもらえるかもしれない、解決してもらえるかもしれないというふうに、どんどん増えてきている側面もあるのではないかなと、現場で感じております。件数が増えるにつれて、本当に課の中で調整をするのは難しいことと思いますが、今後とも、現場のために支援していただきたいということをお願いしたいと思っております。

委員：特別支援学級の担任を決める時に本当に困るという話が中学校長会でよく出ます。今まで特別支援学級を担任したことがない人が担任をするケースが増えていまして、来年度、特別支援に関する研修を、希望者も受けることができるようになるということ、本当にありがたいと思っています。また、研修ももちろんですが、新たに担任をした人が気軽に相談できるような場があればとも思っています。

もう1点は、先ほど、問題行動が、生徒指導のことと特別支援が絡んでというケースが多いということも言われていましたが、家庭的な支援が必要な家で、不登校が起きているケースもたくさんあります。福祉的な支援を必要とする家も多いので、育成支援課と福祉部局との連携等もお願いしたいと思っております。

事務局：担任が相談できる場ということについては、来年度の研修にグループワークを取り入れて、経験を積まれた特別支援学級の先生にコーディネーターのような形で入っていただいて、そこで相談したり悩みを打ち明けられたり共有できたりする場を持つということ、今考えております。また、地域のコーディネーターの方などが、相談会のようなことをできるのではないかなということも考えております。

事務局：福祉との繋がりという点については、スクールソーシャルワーカー等、家庭に入ることができるポジションの方もおられます。そういったスクールソーシャルワーカーも含め、ケース会議でも、横の連携を常に意識して、取り組んでいるところでもありますし、もっと強固なものとしていかなくはないかなというの、承知しております。気軽に相談できる場所ということを周知していきたいと思っておりますので、校長先生方からも、電話してみたらと先生方にも言っていただけたらと思います。

委員：2点ございます。1点目は、まず1人端末1台時代となりまして、非常にネットを利用する子供が増えている。先ほどもありましたけどネット上の犯罪に巻き込まれる子供たちが増えておりますので、ネットリテラシー、1点目はネットリテラシーについての、子供への授業などを令和4年度も考えていただけたらということを思いました。これは子供だけではなくて保護者にも、例えばフィルタリング機能などの活用といったことなどの説明などが必要ですが、そういうネットリテラシーについての授業をもっと取り入れていただきたいということが1点。

それから2点目は、先ほど不登校の増加ということが挙げられておりました。これは別に不登校になる子供たちだけの問題ではないと思っております。今ネットでは、クラスの中でも、スマホを持っていると、ラインで繋がっている子供たちだけで非常に繋がる。けれども、クラス全体の繋がりはどうかというと、非常に希薄になってきているのではないかな、ということが考えられま

す。コロナの影響で自宅待機やオンラインになり、子供たちの繋がり感が全体的に下がっているのではないかという問題意識を持って、先生方非常にお忙しい中、ネットの整備に奔走することもあろうかと思いますが、やはり子供たちがリアルにどうつながれるのかという視点を入れた取組なども一方では考えていただければということ。この2点について、令和4年度に考えていただきたいということをお伝えさせていただきます。

事務局：ネットモラルのことですが、私自身現場にいた時に思ったのは、そういうネットモラルの教育を受ける前に、正しい活用の仕方とかルールとかもわからずに、先に端末や携帯を親が与えてしまっていたようなところがあるのではないかなと思います。今回、1人1台端末が入ったことによって、各学校で子供と保護者向けに端末利用のルールというものを配って、それを親子で一緒に見ながら、ネットモラルについても学ばせています。さらに事例で学ぶネットモラルというものを、夏休み前、休み前には、保護者と一緒に見てもらったりして、ネットリテラシーのことについて、今年から十分研修を積み、保護者にも啓発しているところです。来年度も引き続きやっていこうと思っております。ありがとうございました。

事務局：ネットリテラシーに関することでは、資料の14ページの真ん中辺りにありますように、各学校でカリキュラムを組むことになっています。例えば、道徳科では情報モラル、小学校の社会科では情報教育、そういった教科の学習をもとにしながら、ネットとの良好なつき合い方、関係性ということについて、啓発を深めていきたいと思っております。

委員：今いろいろ子供とネットのことに関してお話がありましたが、私も専門分野として調べているので、必要だと感じています。ただ最近、うちの卒論生のデータでは、SNSでコミュニケーションをとっている子供の方がとっていない子供よりもストレスが低いという形になっていて、今の子供たちにとって、ネットとかそういうものがあることで、プラスの面が増えているということも感じています。同時に、例えばeスポーツゲーマーなどで活躍をしていくという雰囲気にもなっている、今までのネットの教育だとどうせまた駄目だと言われるでしょうというようなことを子供たちもすごく感じているということを、スクールカウンセラーをしていて学校の先生方から聞いています。子供の方が詳しいから、今日の話は知っていたといったことを言われると、一方で使い過ぎとか、さっきお話いただいたような犯罪に巻き込まれることがある。特に、もう一つ、同じ調査で、自分で投稿発信、TikTokとか動画とかを上げている子は、そうじゃない子よりもすごく自己肯定感が低いということも示唆されています。だからネットの場でたくさん見もらえるからどうしてもそっちの方に入ってしまうというところがあるのかなということは、他で似たようなデータも出ていました。ですので、今委員が言われたように、何かこう、友達同士の繋がりとか、クラスとか地域とか学校でお互い認められるという、本当に日頃先生方が尽力されているような、生徒指導、教育相談の活動がすごく大事なと改めて感じました。ですので、ネットが悪いというよりも上手に使うとクラス、仲間の幅を広げようという、そんなプログラムをこれから推進していけるといいなと思いました。

会長：外国では、オンライン教育はもう必須になっていて、それが成功するかどうかが学校教育の成否を左右するとまで言われている国もある。日本も、このコロナの中で、小中はまだ対面が基本ですが、大学はもうオンラインが当たり前になっていますので、大学の中でも1年生2年生はそれまでの学生とは全然違うと聞いています。先生方も事務職員の方も言われます

が、1・2年生は高校生と変わらない。つまり大学生になると、高校までの勉強の仕方と違い、自分でやります。高校までは先生が言われたことをかなりの程度真面目に受け取ってちゃんと答えようとしていますけど、大学生は先輩からいろんな知恵をもらって、それをくぐり抜ける方法とか或いは要領よくやる方法とか、結構やるわけですね、真面目な顔して聞いているふりをして内職するとかもやるわけです。ところが、そういうのを知らない。だからこれは大分変わってきているということですね。今の委員のお話のように、だからといって元には戻せない。だからこの環境を前提に、人間関係づくりを我々が考えないといけない、オンライン上でやらなくてはいけない、というところに来ていると思います。そこが今一番課題になっていて、暗中模索の状態で行っているというようなことですね。だから、小中学校は、高校もそうですが、対面が基本ですから関係づくりはできると思いますが、オンラインも増えてきますので、できればオンラインでの関係づくりをやることも求められるかもしれないですね。私も具体的にはわかりませんが、先生方のその面での研修みたいなものもこれから出てくるのではないかなという気がしますね。

会 長:今いろんなご意見をいただきましたが、事務局の方で何か言いたいことはありませんか。

事務局:先ほどの人間関係づくりに少し関係しているかなと思いますが、今、学習者用端末を使って、協働的な学びというものを多くの学校でされています。授業の最後に自分の考えや今日のまとめを皆が同じシートの中に打ち込み、他の人の意見も見たり、あと、遠隔の学校とオンラインでつないで同じ授業を受けたりとか、そのようなことも、市内の学校では広まっています。この辺が切り口になって、人間関係づくりの何かしらの手だてになっていくのではないかなと思っております。そういう研究を来年度以降、またいろんな小学校中学校でやっていただいて、情報発信していけたらと思っております。

会 長:ぜひ、お願いしたいと思います。先ほども申し上げたように、令和3年度はまだもう少しありますけれども、この、立てられた事業は概ね実現されているという感じを受けます。来年度も事業の基本は変わらないわけですね。ただ特別支援教育を充実させるとか、これから具体的な活動内容とか或いは、目的、目標値ですね、指標による目標値も作られることになると思います。またそこも注目していきたいと思います。

閉会